

# 事業仕分けのための 「外部ヒアリング」を実施

青森県 鱒ヶ沢町

人口：12,746人

面積：342.99km<sup>2</sup>

**担当部署：政策推進課**

## 概要

町が行っている事務事業について、住民や学識経験者等で構成する委員と、町担当職員との間でそのあり方を議論し、今後の取組に反映させることを目的に、「事業仕分け」のための「外部ヒアリング」を実施した。

## 選定理由

(青森県コメント)

外部の視点・意見を取り入れた事務事業の見直しに係る取組であり、行政改革の手法として有効なものであると考えている。今年度、県内他市町村でも、鱒ヶ沢町の取組を参考とした取組が見られる。

効果を引き出すため、外部ヒアリングの実施後の予算への反映や民間における事業実施に向けた取組等が併せて求められると考えている。

## 背景

当時、町では「行財政改革プラン」の策定作業を進めていたが、策定に当たっては、町民で構成する「行政改革推進委員会」の意見を聞きながら、また、委員会の内容も町民へ公開し、幅広い意見をプランに反映させることとしていた。

特に、施設運営と事務事業の見直しについては、プランの主要をなすものだが、従来の経常経費一律カットなどの行革の手法にも限界がきているような感じが見受けられていることから、新しい手法として、事業仕分けに着目し、当該取組に至ったものである。

## 具体的内容

外部ヒアリング実施に当たっては、行革委員 10 名をはじめ、学識経験者（弘前大学教授等）4 名、町民委員 2 名、県内自治体職員 4 名の計 20 名からなるヒアリング委員を 4 班編成。また、各班に 1 名ずつ進行役としてコーディネーターを配置し、分野別に 4 班に分けた全 54 事業について、町職員との間でヒアリング（1 事業あたり 60 分）を実施した。

ヒアリングでは、あらかじめ各課で作成した事業概要表に基づき、事業担当者からの概要説明を行った後、委員と担当者との間で質疑応答、議論がなされ、最後に事務事業のあり方について、札上げをした。

結果については、庁内に周知、また、町民には広報紙や町HPで公表した。



外部ヒアリングの様子

### ◆ 作業手順 ◆

#### ① 事業概要の説明（5分程度）

担当者が「事業概要表」に基づき、事業内容を委員に説明

#### ② 質疑応答、議論（40分程度）

委員が、事業内容や事業の妥当性などの詳細について、担当者に質問

#### ③ チェックシートの記入（5分程度）

委員が、下記の仕分け区分から1つを選択し、選択理由をチェックシートに記入

#### ④ 結果整理（10分程度）

委員による札上げ（区分選択）を行った上で選択理由を述べ、結果を整理

### ◆ 区分

「不要」「国」「県」「町（現行どおり）」「町（内容、規模見直し）」「町（手法見直し）」「民間」

## 取組中の課題・問題点

### ◆実施時期が遅すぎたこと

→ 本来は、夏、秋頃に実施し、その結果を踏まえ各課において今後の事務事業のあり方を検討し、次年度の予算編成へ反映させるのが一般的な流れであると考えられる。

### ◆取組の趣旨説明の徹底

→ 取組を大きなイベント視している職員が多数見受けられた。あくまで行革の一つの手法として行うものであり、また、取組終了後もその結果をどう活かして今後へ繋げていくのかを、実施前から職員に対し徹底した説明をしておく必要があった。

## 工夫点

ヒアリングを公開で実施することにより、傍聴者に配慮した工夫を施した。

### ヒアリング会場の利便性確保

→ ヒアリング会場を、仕切り壁による連続スペースとすることで、傍聴者の移動が容易になるよう配慮した。

### ヒアリング進捗状況の掲示

→ ヒアリング会場入口前に、当日の結果速報及び現在の作業進捗状況を掲示した。

### シミュレーションの実施

→ 当日の進行がスムーズに行われるよう、ヒアリング実施前の「職員説明会」、委員への説明会等において、事務局によるシミュレーションを実施した。

## 効果

ヒアリングは公開で行われ、2日間で町民が約30名、県内市町村から13団体、約60名が来場し、傍聴した。

また、ヒアリングの結果は以下のとおりで、札上げの結果「現行どおり」という事業もあったが、それらを含め、大多数の事務事業が何らかの見直しが必要である、という結果となった。

◎ 区分別集計表（※ヒアリング委員票のみで、コーディネーター票は含まれていない）

不要	国実施	県実施	町実施 (現行どおり)	町実施 (内容、規模見直し)	町実施 (手法見直し)	民間化
12	0	3	39	139	34	21

また、今回の取組は、年末で次年度予算要求後だったこともあり、担当課が結果を予算編成へ直接反映させることはできなかった。一方、経費節減効果以外では、次のような効果があった。

### 【行政側】

- ◆ 町の全般的な事務事業や施設のあり方に関する問題、課題が明確になった。
- ◆ 職員が、事業概要表を作成することで、事業の意義を改めて考える機会となった。また、公開で行うことによって、適度な緊張感が得られた。(職員意識の改革、向上)

### 【住民側】

- ◆ ヒアリングを公開で実施したことにより、住民への情報公開につながった。
- ◆ 行政と一体になった行政改革に取り組むきっかけに繋がるものと思われる。

## 住民（職員）の反応・評価

### 【住民（傍聴者）】

一部の住民からは、自分が発言できないのが残念だ、との声があるなど、一部ではあるが、住民の町政参画への積極的な意志を見ることができた。

### 【職員】

アンケート調査を行ってはいないが、取組を通じて特に批判的な意見はなく、また、中には普段の業務では得られない緊張感が得られたことや、一つの事業に対して、そのあり方を課内で協議する場が得られた、など一定の評価を得た。

## フォローアップ

今回のヒアリングの取組を今後どう繋げていくか検討した結果、21年度の予算編成にあたり、今回用いた事業概要表を参考として、要求額を含めた「事務事業実施計画書」を作成した。この計画書は各担当者が予算要求にあたって、個々の事務事業を改めて見直し作成したものであり、予算査定の資料となる。

また、計画書については、今後の事務事業のマニュアルや事務事業評価など、計画書をベースに様々な活用を検討していきたい。

さらに、将来的には、計画書や評価結果について町民に公表することも検討している。

## 今後の課題

職員にとって、今回のヒアリングをイベント視してしまった感（一過性）が見受けられたため、今後は、あくまで行革の一つの手法として位置付け、この取組を今後どう繋げていくか、の仕組みづくりが重要課題である。

当町においては、「行財政改革プラン」策定作業に効果をもたらしたことはもちろん、参加職員、傍聴した住民における意識面での向上にも一定の成果を得られたことは事実であり、その効果を希薄化させないよう、今後の様々な取組へ繋げていかなければならない。

## 今後取り組む自治体に向けた助言

事業を見直すためには、事業に対する考え方を変えなければならず、その考え方を変えるきっかけとなる「事業仕分け（当町においては外部ヒアリング）」は、各自治体における行財政改革の取組の一つの手法として有効であると思われる。

「事業仕分け」の一連の流れの理想論は、次のとおりである。

- |   |
|---|
| <p>① <b>事業概要表の作成</b>・・・事業の意義を考える（普段何気なくその業務をこなしていないか、など事業に対する課題、問題点が明確化）</p> <p>↓</p> <p>② <b>事業概要の協議、検討（ヒアリング対策）</b>・・・その事業のあり方はどうなのか、どのような効果をもたらすのかなど、各担当課において協議し、当日のヒアリング対策を行う。（※大事なのは、ヒアリングの際、どのような質問が来て、それにどう答えるのか、という「<u>答え</u>」を持つのではなく、<u>事業に対する「考え」をしっかりと持つこと</u>）</p> <p>↓</p> <p>③ <b>事業仕分け実施</b>・・・作業を通じて何らかの「気づき」が得られる。</p> <p>↓</p> <p>④ <b>事業仕分け結果協議</b>・・・各課において、そもそもの事業のあり方に対する住民意見を踏まえ、それをどう反映させていくのかを議論（住民意見を直接見直し策に反映できるものは少ないと思われるが・・・）（※ここで、事業に対する考え方が変わる）</p> <p>↓</p> <p>⑤ <b>当初予算編成</b>・・・事業に対する考え方が変わることにより、予算要求の方法も変わり、結果、見直しが図られる</p> |
|---|

「事業仕分け」は、予算編成へリンクさせることにより、「何割（円）の削減効果」や、「事務事業の再編、整理が図られた」などの成果が見込まれる一方で、事業仕分けの過程を経ることにより、事務事業に携わる職員の意識の改革・向上や職員と住民との関わりが深まる成果も見込まれる。

このように、当該取組が、行革の取組へどのような波及効果をもたらすのかを視野に入れ、今後の展開を考えていかなければならない。

## アドレス

<http://www.ajigasawa.net.pref.aomori.jp/page/kakuka/soumu/exhearing/exhearing.html>